

## 【課題および対応についての考察】

### ○6 いじめ に関して

学校は安全が保障され安心して学ぶことができる環境でなければならない。「6今の学年になっていじめられたことがありますか」の項目について、あると答えた児童が前期は5%、後は5%となった。いじめは人間の尊厳を奪う、重大な人権問題である。今後もスクールプラン数値目標「いじめ解消100%」を目指し、実効的な生徒指導体制を確立し、一貫性のある指を継続的に展開したい。そして、自己指導能力の育成を図り、「いじめは絶対に許さない」とう認識を醸成したい。また、道徳をはじめあらゆる教育活動を通じ、自他を大切にする心を育て、心の教育の充実を図りたい。さらに、児童が悩みや不安を相談できるよう、共感的な児童解に努め、児童との信頼関係を構築したいと考える。

### ○11・13 授業中の発表や質問に関して

今年度は昨年度までの研究を土台にしながら、自ら考え表現できる児童の育成を目指して授づくりの研究を進めてきた。「11授業中、自分の考えをよく発表しますか」の項目について肯定的評価は約半分の57%にとどまり、スクールプランの数値目標「進んで発表85%」にまだ遠い実態である。知的好奇心や興味関心を高める教材の提示など、指導方法を工夫して言活動を充実させ、授業改善に取り組むことにより、今後も継続的な取組を行っていききたい。また、「13授業でわからないことについて、先生に質問しますか」の項目では肯定的評価は71%であった。失敗や間違いが気持ちよく受け入れられる環境やどの子どもにとっても居心地よい環境など支持的風土のある学級づくりに努めたい。

### ○14 次の日の学校の準備について

「14次の日の学校の準備を自分でしますか」の項目については、H26年度から質問内容変えた項目である。学校の学習準備については自分で行えている児童が95%と多いことが分る。しかし、忘れ物が少なくなっているかについては、宿題も含め引き続き課題として捉える必要がある。特に低学年では家庭の協力が必要になるが、より主体的に、宿題や翌日の学習準備できるよう指導したい。

### ○15 家庭学習について

「15家では、宿題のほかに学習しますか」の項目については、H26年度から自主学習の点で質問内容を変えて調査している。宿題以外の学習に約7割の児童が取り組んでいることは価したいが、約3割はあまりできていない状況にあること、また、習慣化という点では課題があることについて、具体策を改めて考え取り組む必要がある。羽黒小の特徴的な取組であるレコーディングスタディが、発達段階に応じてさらに効果的に活用できるよう、復習や予習の具体的な進め方を提示する等、各学年で工夫して取り組み、学習習慣を身に付け、より主体的に学習に取り組む態度を育成していききたい。アンケートの肯定的評価は、児童は67%、保護者は74%あったが、スクールプランの数値目標「家庭学習（自由学習）の推進80%以上」に近づくよう、家庭との連携を強くしながら取組を行いたい。

### ○17 教師への相談に関して

「17先生にはなんでも相談できますか」の項目について、肯定的評価が79%であった。での児童が有意義で充実した学校生活を過ごすためには、児童へ安心感を与え、信頼関係の構に努めなければならない。児童との人間的な触れ合いを通じ、児童の内面に対する共感的理解深めたい。そして、児童を「かけがえのない存在」として捉え、積極的にかかわり、教師自らを開くことで、児童が心を開いて安心して語り合える関係をつくりたいと考える。そして、児の不安や心配に寄り添いながら児童自らが解決の道を見出していけるよう指導・支援していきい。

期の導い  
理

業、は語

の

をか必が

視評残一な取で

全築を心童た